

矢祭子ども司書六期生の君達へ

おはよう！

今日から、いよいよ子ども司書の講座が始まるのですね。学校では授業をはじめ、クラブ活動などいろいろな活動があつて忙しいのに、ごく限られた人数の子ども司書講座の受講を、よくぞすすんで希望しましたね。

でも、子ども司書の学びを最後までやり遂げると、この講座を受けなかった場合と比べて、得難い経験をしたことに気づくでしょう。本をよく読み、本を愛することは、子ども時代に心が成長するうえで、とても大きな意味を持ちます。もし本を読まなかったら気づかなかつたもの、もし本を読まなかったら持てなかつた弱い立場の人に対する思いやり、もし本を読まなかったら開けなかつた将来への希望——読書はいろいろな気づきを私たちにもたらしてくれます。そういう本たちのすばらしい可能性について、ただ自分ひとりだけで楽しむだけでなく、本はどのようににして作られたり、図書館で貸し出されたりするのか、あるいは群読のようにみんなで一緒に本を朗読することによる特別の感動をもたらす活動のすばらしさ、あるいは積極的に本を人にすすめることの大切さ、さらには本の世界はどのように分類され、いかに沢山の本があるのかなどといったさまざまなことを、子ども司書の講座を受けていると学ぶことになり、君たちの視野は大きく社会に向かって開かれていくのです。

さあ、これから大変でしょうが、しっかりと子ども司書の学びにチャレンジしてください。そして、秋には私も矢祭町を訪ねますので、お会いしましょう。

平成二十六年六月八日

作家 柳田 邦男
やなぎだ くにお